

# ロンドンからコッツウォルズを訪れ、マナーハウスに宿泊 英国の田舎町を巡る7日間



日付	都市	時間	日 程	宿泊地	食事
9/13 (木)		午前 夕刻	成田空港集合 搭乗・出国手続後、空路ロンドンへ ロンドン到着 入国手続後 専用車にて市内ホテルへ 到着後 チェックイン	【ロンドン 泊】	× 機 機
9/14 (金)	ロ ン ド ン	朝 午前 昼 午後	ホテルにて朝食 食後 ロンドン市内半日観光へご案内 (国会議事堂、バッキンガム宮殿等) レストランにて昼食 ホテルに戻り自由行動 ◎患者様は市内病院にて人工透析	【ロンドン 泊】	朝 昼 ×
9/15 (土)		朝 午前 昼 午後 夕刻	ホテルにて朝食 食後 専用車にてウィンザー城の観光へ出発 途中 レストランにて昼食 観光後 専用車でロンドンへ戻り自由行動 レストランにて夕食	【ロンドン 泊】	朝 昼 夕
9/16 (日)	ロ ン ド ン	朝 午前 夕刻 夜	ホテルにて朝食 専用車にてシェイクスピアの故郷ストラトフォード・ア ポン・エイボンに出发 到着後 徒歩にてシェイクスピアの生家等の観光と散 策をお楽しみ下さい レストランにて昼食 専用車で童話の世界のような典型的な英国の田舎 風景が広がるコッツウォルズ地方に出发 (ハイブリー、バートン・オン・ザ・ウォーターなどの街 を観光・散策します) 観光後 ホテルにチェックイン ホテルレストランにて夕食	【コッツウォルズ地方 泊】	朝 昼 夕
9/17 (月)		朝 午前 昼 午後	ホテルにて朝食 専用車でロンドンへ 着後 レストランにて昼食 ホテルチェックイン後 自由行動 ◎患者様は市内病院にて人工透析	【ロンドン 泊】	朝 昼 ×
9/18 (火)	ロ ン ド ン	朝 午前 午後	ホテルにて朝食 食後 ロンドン・ヒースロー空港へ 到着後 搭乗・出国手続き 空路 帰国の途へ	【機内 泊】	朝 機 機
9/19 (水)		午前	成田空港又は関西空港到着 入国手続・通関後、解散		機

## 旅行期間

9月13日(木)～9月19日(水)

## 旅行代金

出発地：東京・大阪

530,000円

(2名1室ご利用の場合のお1人様あたり)

◎燃油サーチャージ、空港税について:燃油特別付加料  
金(燃油サーチャージ)、並びに海外の空港使用税及び国  
内空港の空港施設使用料、航空保険料は旅行代金に含  
まれます。今後、燃油サーチャージに増減があった場合  
でも、旅行代金に変更はございません。  
○成田空港にて集合後、国際線に搭乗いたします。大阪  
発着のお客様の大阪～東京の国内線運賃及び成田～羽田  
の移動が必要な場合の費用は旅行代金に含まれます。前  
泊が必要になる場合がございます。  
◎添乗員は、成田空港より同行いたします。

- 利用予定航空会社:ブリティッシュ・エアウェイズ
- 利用予定ホテル:  
ロンドン ホリデイ・イン・フォーラム クラス  
コッツウォルズ コッツウォルドハウス(チップングカムデ  
ン)などのマナーハウスにご宿泊いただきます。
- 食事条件:朝5回・昼4回・夕2回
- 一人部屋追加代金:83,000円(5泊分)
- 現地透析:2回(ロンドン)
- 透析費用:1回約60,000円
- 最少催行人員:6名
- 査証:英国入国には査証は必要ありませんが、旅券の  
残存有効期限が帰国時まで必要です。お客様自身の責  
任でご確認下さい。
- 渡航情報(危険情報):英国には現在危険情報は  
出ていません。詳しくは外務省の渡航情報ホームペ  
ージをご覧ください。(http://www.anzen.mofa.go.jp)

## 【旅の見どころ】

- ロンドン:テムズ川に象徴される歴史と伝統が生き続  
ける英国の首都。ビクトリア王朝時代の荘重感あふれる建  
物と緑豊かな公園などを数多く有する大都市です。
- ウィンザー城:900年以上の歴史のある城は、頑丈な  
城壁に囲まれ、外観も重厚な中世の雰囲気漂わせま  
す。ロイヤルファミリーの週末の家として使われています。
- ストラトフォード・アポン・エイボン:シェイクスピア  
生誕の地として有名な牧歌的な美しい町です。エイボン  
川のほとりの小さな町で、昔ながらの木骨造りの家が今も  
点在しています。
- コッツウォルズ地方:ロンドンから西に200kmほど行っ  
たところにあるコッツウォルズ。清らかな水が流れる広大  
な丘陵の景色が魅力的です。蜂蜜色のおもちゃのような  
家が並ぶ、まさにイギリスの童話から飛び出してきたよう  
な街で、観光客を魅了し続けています。
- マナーハウス:マナーハウスとは、中世のカントリーサイ  
ドの領主や貴族の館のことです。もともと領主が自分達  
の邸宅をゲストへのおもてなしに開放した施設だったもの  
が、現在では宿泊施設として利用され、英国貴族達の暮ら  
しぶりを味わうことができます。